# 会社情報/株式情報　Corporate Profile / Stock Information

## 会社概要(2014年12月31日現在)

| | |
|---|---|
| 社　　名 | 株式会社構造計画研究所 |
| 英文商号 | KOZO KEIKAKU ENGINEERING Inc. |
| 設立年月日 | 1959年5月6日 |
| 資本金 | 1,010百万円 |
| 決算期 | 6月 |
| 上場市場 | 東京証券取引所(JASDAQスタンダード) |
| 事業内容 | エンジニアリングコンサルティング<br>システムソリューション<br>プロダクツサービス |

### IR情報　メール配信サービス

「ディア・ネットサービス」によりプレスリリースやIRサイトの更新をメールにてお知らせいたします。

http://www.kke.co.jp/ir/

## 株式の状況(2014年12月31日現在)

| | |
|---|---|
| 発行可能株式総数 | 21,624,000株 |
| 発行済株式総数 | 6,106,000株 |
| 株主数 | 2,066名 |

## 株主メモ

| | |
|---|---|
| 事業年度 | 7月1日～翌年6月30日 |
| 基準日 | 6月30日 |
| 定時株主総会 | 毎年9月 |
| 株主名簿管理人 | |
| 特別口座の口座管理機関 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 同連絡先 | 三菱UFJ信託銀行株式会社<br>証券代行部<br>〒137-8081<br>東京都江東区東砂七丁目<br>10番11号<br>TEL：0120-232-711<br>(通話料無料) |
| 公告の方法 | 電子公告により行う |
| 公告掲載URL | http://www.kke.co.jp<br>(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。) |


構造計画研究所
KOZO KEIKAKU ENGINEERING Inc.

〒164-0012
東京都中野区本町4-38-13 日本ホルスタイン会館内
TEL(03)5342-1100　FAX(03)5342-1201


VEGETABLE OIL INK
環境に配慮した「ベジタブルインキ」を使用しています。

UD FONT by MORISAWA
見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

ステークホルダーの皆さまとKKEをつなぐ

# KKE：REPORT

## 57期(上半期)

2015年6月期(上半期)(2014年7月1日～2014年12月31日)

KKE is a Professional Design & Engineering Firm that acts as a bridge between academic and business worlds.

JASDAQ 証券コード：4748

大学、研究機関と実業界をブリッジするデザイン&エンジニアリング企業

構造計画研究所
KOZO KEIKAKU ENGINEERING Inc.

平素より格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

構造計画研究所は1956年の創業、1959年の創立以来積み重ねてきた「工学知(エンジニアリング)」を最大限に活用し、社会の問題を解決する「総合エンジニアリング企業」を目指しております。

当社のステークホルダーの皆様におかれましては、当社の支援者として、あるいはパートナーとして長期的な信頼関係を築きたいと考えております。

今後ともより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

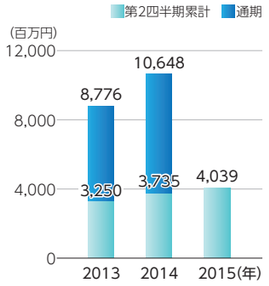
株式会社構造計画研究所

## 第2四半期累計期間の業績

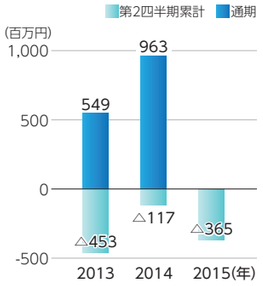
売上高は40億39百万円(前年同四半期比3億4百万円増)となりました。「次世代の社会構築(デザイン)」の促進に貢献するよう努め、3つのセグメントそれぞれで受注が堅調に推移いたしました。主に防災・耐震関連の解析コンサルティング業務、大手住宅メーカー向け構造計算システム及び住宅設備メーカー向けシステムなどの開発、製造業のソフト販売などが好調でした。営業損失は3億65百万円(前年同四半期比2億48百万円損失増)、経常損失は3億93百万円(前年同四半期比2億49百万円損失増)、四半期純損失は2億66百万円(前年同四半期比1億55百万円損失増)となり、前年同四半期に比べ増収減益となりました。

なお、当社では、多くの顧客が決算期を迎える3月末から6月末にかけて、成果品の引き渡しが集中することから、第2四半期累計期間に占める売上高の割合は低い水準となる傾向があります。当第2四半期累計期間の損失は、かかる季節変動による影響の他、通信ネットワーク関連での要求仕様等上流工程の一部業務において採算が悪化したこと及び外注費の増加が主な要因となっています。

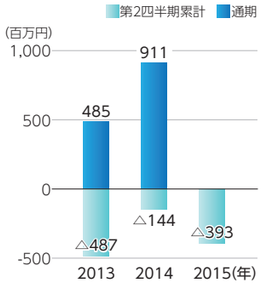
●売上高



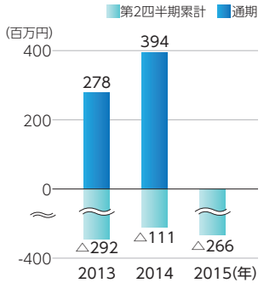

●営業利益




●経常利益




●純利益








# 皆様に支えられて 設立55周年

創業者　服部　正(工学博士)

構造計算を行うために導入した
コンピュータ

当社は2014年5月6日に設立55周年を迎えることができました。10人足らずからスタートした構造設計事務所は、1961年に超高層建築時代に先駆けて、日本で初めて建築の構造計算にコンピュータを導入するなど、設立当初よりイノベーションを進めてまいりました。

創業者である服部正は「社会のいかなる問題にも対処できるよう総合的なバラエティに富んだ専門家を集めた工学を生業とした組織を作りたい。」と語りました。以来当社は、大学、研究機関と実業界とをブリッジするデザイン&エンジニアリング企業として社会の問題を解決し、「次世代の社会構築・制度設計」の促進に貢献することを企業理念として掲げ、事業を拡大してまいりました。現在ではその事業領域は「構築物」のみならず、構築物を取り巻く「自然・環境」、さらには「社会・企業・コミュニティ」にまで広がりを見せています。

■事業領域の広がり

当社は、今まで、そしてこれからも皆様と目指していきたい社会のあり方を「Innovating for a Wise Future」と表現しています。革新と叡智と未来。イノベーションを繰り返すことで持続可能な幸せな社会を築いていければと考えておりますので、ステークホルダーの皆様には、今後もより一層当社の取り組みへのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

KKEの未来像：Innovating for a Wise Future

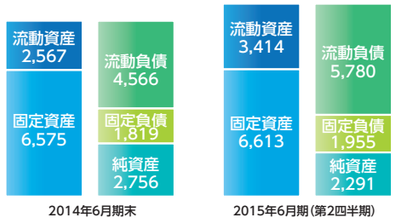
Innovating「革新」 → 常に革新を志向し続ける

for a Wise「叡智」 → 単なる効率やスピードの追求ではなく、持続可能で人々の真の幸せにつながる叡智・共通善を、社会の基礎に置く

Future「未来」 → 明るい未来を志向する

## 四半期貸借対照表のPOINT

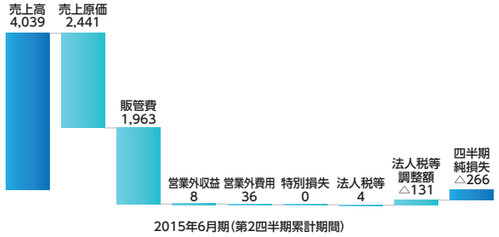
(単位：百万円)




- 主に受取手形及び売掛金が2億6百万円、仕掛品が4億88百万円、繰延税金資産が1億11百万円増加したことにより、流動資産は前事業年度末に比べて33.0%増加し、34億14百万円となりました。
- 主に短期借入金が15億50百万円、前受金が2億66百万円増加する一方、未払費用が4億88百万円、未払法人税等が2億1百万円減少したことにより、流動負債は、前事業年度末に比べて26.6%増加し、57億80百万円となりました。

## 四半期損益計算書のPOINT

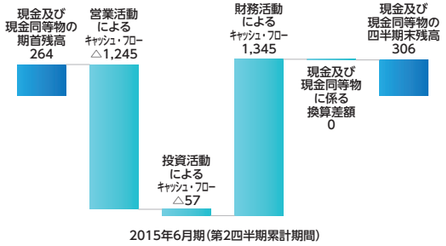
(単位：百万円)




- すべてのセグメントにおいて売上高は順調に推移しましたが、通信ネットワーク関連での一部業務においての採算の悪化やソフト販売の減少などにより、増収減益となりました。

## 四半期キャッシュ・フロー計算書のPOINT

(単位：百万円)




- 営業活動においては、賞与引当金の増加額1億72百万円の資金の流入、税引前四半期純損失3億93百万円、たな卸資産の増加額4億86百万円、未払費用の減少額4億89百万円の資金の流出で、資金の減少は12億45百万円となりました。
- 財務活動においては、短期借入金の純増減額15億50百万円、自己株式の処分による収入2億74百万円、自己株式の取得による支出1億89百万円により、13億45百万円の資金増加となりました。





## 四半期貸借対照表（要旨）

(単位：百万円)

| | 当第2四半期 (2014年12月31日現在) | 前事業年度 (2014年6月30日現在) |
|---|---|---|
| (資産の部) | | |
| 流動資産 | 3,414 | 2,567 |
| 現金及び預金 | 306 | 264 |
| 受取手形 | 27 | 43 |
| 売掛金 | 1,288 | 1,066 |
| 仕掛品 | 895 | 407 |
| その他 | 896 | 786 |
| 固定資産 | 6,613 | 6,575 |
| 有形固定資産 | 5,093 | 5,119 |
| 無形固定資産 | 329 | 363 |
| 投資その他の資産 | 1,189 | 1,092 |
| 資産合計 | 10,027 | 9,143 |
| (負債の部) | | |
| 流動負債 | 5,780 | 4,566 |
| 買掛金 | 269 | 229 |
| 短期借入金 | 3,500 | 1,950 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 120 | 182 |
| その他 | 1,890 | 2,204 |
| 固定負債 | 1,955 | 1,819 |
| 長期借入金 | 232 | 292 |
| リース債務 | 38 | 48 |
| 退職給付引当金 | 1,624 | 1,419 |
| 役員退職慰労引当金 | 40 | 40 |
| 資産除去債務 | 19 | 19 |
| 負債合計 | 7,735 | 6,386 |
| (純資産の部) | | |
| 株主資本 | 2,273 | 2,753 |
| 資本金 | 1,010 | 1,010 |
| 資本剰余金 | 1,134 | 1,041 |
| 利益剰余金 | 1,924 | 2,444 |
| 自己株式 | △ 1,796 | △ 1,742 |
| 評価・換算差額等 | 18 | 3 |
| 純資産合計 | 2,291 | 2,756 |
| 負債純資産合計 | 10,027 | 9,143 |

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 四半期損益計算書（要旨）

(単位：百万円)

| | 当第2四半期累計 (2014年 7月 1日から 2014年12月31日まで) | 前第2四半期累計 (2013年 7月 1日から 2013年12月31日まで) |
|---|---|---|
| 売上高 | 4,039 | 3,735 |
| 売上原価 | 2,441 | 2,115 |
| 売上総利益 | 1,597 | 1,619 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,963 | 1,736 |
| 営業損失（△） | △ 365 | △ 117 |
| 営業外収益 | 8 | 4 |
| 営業外費用 | 36 | 31 |
| 経常損失（△） | △ 393 | △ 144 |
| 特別損失 | 0 | 11 |
| 税引前四半期純損失（△） | △393 | △156 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 4 | 4 |
| 法人税等調整額 | △ 131 | △ 48 |
| 四半期純損失（△） | △ 266 | △ 111 |

## 四半期キャッシュ・フロー計算書（要旨）

(単位：百万円)

| | 当第2四半期累計 (2014年 7月 1日から 2014年12月31日まで) | 前第2四半期累計 (2013年 7月 1日から 2013年12月31日まで) |
|---|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △ 1,245 | △ 948 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 57 | △ 57 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 1,345 | 1,243 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 0 | △ 0 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | 42 | 238 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 264 | 380 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 306 | 618 |

# 長年、携わってきた投資運用業の観点から、「世界に誇れる高い技術力」と「優秀な人材力」に大いなる魅力を感じる会社、それがKKE

「世の中の役に立ちたい」という純粋な発想から生まれるユニークかつ先進的なKKEの技術をより幅広い業界に紹介していくことで、KKEの次なる成長のステージに貢献する。

社外取締役
渡邊 太門
TAMON WATANABE

プロフィール●株式会社日本興業銀行入行後、シンガポール興銀取締役を経て、フィデュシャリー・トラスト・インターナショナル投資顧問代表取締役社長就任。野村アセットマネジメント株式会社常務執行役を経て同社顧問就任。国内外の金融機関における投資顧問業及び経営管理に関する豊富な経験と幅広い知識で、当社のグローバルな発展に寄与していただくため、2014年9月より当社の社外取締役就任。

## これまでのKKEにはない観点を持ち込むことが私の仕事

長年に亘り資産運用業務に携わり、経歴のうち1／3は海外へ駐在し、アジア、欧州、中東、アフリカなどで業務経験を積む機会に恵まれてきました。おそらくKKEには、私のような経歴の人間はいたことはなく、だからこそ、違った視点を持ち込むことに期待いただいていると受け取り、社外取締役という大役をお引き受けしました。資本政策やマーケティング、セールス面のほか、シンガポールをはじめ、アジアで仕事をしてきた7年間の経験からもお力添えできるのではないかと考えています。あくまで社外取締役という立場ですが、チェック機能を果たす監査役とは異なり、会社がより発展するために役立つことが役割であると認識しており、取締役会という場での発言のみならず、実際に顧客紹介などにも積極的に同行させてほしいとお願いしています。

## まずは、KKEの技術力を広くあまねく知らしめていきたい

9月の就任以来、顧客訪問に幾度か同行しました。先進メーカーのトップ技術者の方たちが、KKEの技術に対し、「本当にそんなことができるのか」と非常に強い関心を示すことを目の当たりにしてきました。そのたびに、活用のポテンシャルの大きさを感じると同時に、KKEが有する非常にユニークな世の中に役立つ技術の存在が、あまりにも知られていないのだと痛感する機会になるのです。さらにKKEが世の中の役に立ち、その結果として企業価値が高まるためには、まず「どういう技術を提供できる会社なのか」を広く知らしめていくことが重要であると考えます。これまでの、特定の限られた業界向けに技術を提供してきた「知る人ぞ知る高度な専門集団」から脱皮し、もっと顧客層を広げること、そのためにマーケティングの考え方、やり方を意識していくことにも取り組んで欲しいと思います。

## 社会貢献を追求しながら次なる成長のステージへ

こうしたことを課題としてあげられるのは、その前提条件である「優秀な人材」、「優秀な技術力」をKKEが有しているからに他なりません。現在のKKEの経営陣は、技術力を高める、維持する、変化させていくことに、非常に長けていると感じます。これまで多くの企業と関わってきましたが、これほど人を大切にしている会社は、そうはありません。どの企業も人が財産であるとは言いますが、実際に行動し、人材の採用も先進的かつ独自の方法を貫き、優秀な人材、技術を育成し、そのレベルを維持し続けている、これはそう簡単なことではないのは皆様も知るところでしょう。

こうしたKKEの特長、強みを次なる成長のステージに導くこと、それがイコールさらなる社会貢献につながると考えます。これまでの投資運用業、海外での事業経験を活かした新たな観点を持ち込み、社外取締役として、KKEが次なる成長のステージに進むお手伝いをしていくことをお約束します。



TOPICS トピックス

# 「KKE Vision 2014」を開催

昨年10月30日に虎ノ門ヒルズフォーラムにて「KKE Vision 2014」を開催いたしました。今回のテーマは「ともに気づく未来、ともに築く社会。」とし、午前は東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム特任教授社会システムアーキテクトである横山禎徳氏に『「産業振興」発想から「社会システム・デザイン」発想へ』というタイトルで基調講演を行っていただいたほか、午後は「イノベーションを生む米国スタートアップコミュニティの実際」、「ITSによる交通の革新と未来創造」、「再生医療におけるコトづくり」など6つのテーマにてセッションを開催いたしました。おかげさまで申込者は1,000名を超え、盛況な開催となりました。

今後も当社はお客様・パートナーとの長期的な信頼関係の構築を維持するために、当社と大学・研究機関及びパートナーとが「工学知」を共有する場として、また、「ともに」未来社会を考える場として、「KKE Vision」を開催してまいりたいと考えております。

株主の皆様もご参加いただけますので、当社の取り組みについて知っていただくためにも是非ご参加いただければと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。